

編集後記

早くも年の瀬。今年も色々な出来事が数多くありました。ギリギリまで開催が危ぶまれた東京五輪も無事に終了。無観客の中、出来る限りの知恵を絞った演出と運営は各方面からの評判も上々で、開催国の面目躍如といったところでしょう。大リーグでの大谷選手の活躍も凄かったですね。来年2ケタ勝利をあげれば2年連続のMVPもあり得るかもしれません。コロナワクチン接種も順調に進み、現在は国民の80%近くが2回目の接種を終了しています。色々な面で出遅れ感のあったスタートでしたが、振り返ってみるとうまく帳尻合わせが出来た一年だったような気がします。

今月の「誌上ギャラリー」は天辰先生よりお寄せいただいた“12月の秋バラと紅葉”。バラと紅葉の組み合わせが斬新で、高い青空とのコントラストが花色の鮮やかさを引き立てています。

「論説と話題」では“年末のご挨拶”と題して各医会、各施設からご寄稿いただきました。やはりコロナ関連の内容が中心のようで、その対策・対応に關しての苦労譚が多かったようです。また10月30日にWeb形式で開催された第52回全国学校保健・学校医大会の概要と、それぞれの分科会の内容報告も併せて掲載しております。ご一読下さい。

「医療トピックス」では田口先生から、アルコール依存症の再発予防薬についてその種類や選択法、副作用への対応策等について詳細に解説していただきました。自分でも診断基準にあてはまる点が見受けられ、少し背筋が寒くなりました。気をつけます。

「学術」は2題ご寄稿いただきました。鹿児島市医師会病院の日高先生からは“最近の術後鎮痛法”について。また10月15日の内科医会10月例会で鹿児島大学の井上先生から“喘息治療のパラダイムシフト”の演題で御講演いただいた内容を掲載しております。

「随筆・その他」では古庄先生から【医学者・科学者】と題してオーストラリアの切手を4点供覧していただきました。馬場先生からはコロナワクチン接種後の抗体価の変遷と、3回目のブースター接種の重要性についてご寄稿いただきました。リレー随筆は県立大島病院の原田先生よりお寄せいただいた“ワクチン問診～「病院の外」で働くっておもしろい！”。病院内での臨床業務以外の“外に出る”仕事を通して、予防医学、地域とのコミュニケーションの重要性について思うところを綴っていただきました。文学部卒で広告制作業をされていたとのこと。非常にすらすらと内容が頭に入ってくる文章で、楽しく拝見させていただきました。

今年1年分の市医師会報の総目次を掲載しました。題目を見直してみると、各号の内容が思い出され、一年過ぎたという実感がわいてきます。ご寄稿いただいた皆様方にあらためて御礼申し上げるとともに、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

「鹿市医郷壇」12号の題吟は「送っ(おく)」でした。なるほどと唸らせる作品が多く、いつも楽しく拝見しております。会員の先生方も是非挑戦してみてください。

この編集後記を書いている11月末現在、コロナ禍は収束とは言えないものの各地の感染者数は大幅に減少し、次第に市中に活気が戻ってきています。これはひとえにワクチン接種の普及と、徹底した人流制限の効果によるのは疑う余地がありません。しかしながら厳しかった規制が徐々に解除され、また年末・年始の時期と重なって、人心に油断が生じる危険性は否めません。3回目のブースター接種による地固めも押し進められますが、今年の中後半の酷い状況を経験した教訓を生かして、さらに節度ある行動を取りたいものです。

(編集委員 寺口 博幸)